

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 気仙沼市立新城小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988 - 0823

宮城県気仙沼市239番地13

E-mail shinjou-sho@kesenuma.ed.jp

Website www.kesenuma.ed.jp/p/shinjou-syou/

幼児児童生徒数 男子 115名 女子 121名 合計 236名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳 ~ 12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応。

当校は、「個性を生かす教育を重視し、自ら学び、たくましく心豊かな子供の育成を図る。」を学校目標として、ESDのテーマ・ねらいを「ふるさと新城のよさを知り、未来につなごう」と捉え、ESDの実践を通して、①意欲・主体性(進んで課題を見つけ、課題解決に取り組む)、②課題解決能力(課題を解決するための学び方、ものの考え方を身に付ける)、③コミュニケーション能力(追究活動や体験活動の中で人とかかわる力を高める)、④自己の生き方を考える力(人や社会、自然とのかかわりにおいて、自らの生活や行動について考える)の、4つの力の育成を目標とした。

具体的には、①地域に係わる活動、②防災に係わる活動、③福祉に係わる活動の3つの領域で実践した。

### ① 地域に係わる活動

地域に係わる学習では、1、2年生が、生活科で公園探検や学校周辺での町探検などを行った。3年生では、地域のリンゴ作り名人を訪問し、リンゴづくりについてお話を伺ったり、児童の様々な質問にも答えていただいた。

4年生では、学校の近くを流れる大川で、講師を招いての調査活動を行った。5年生では、地域の伝統である新城打囃子の練習を行い、笛や太鼓のリズムを4年生へ引き継いだ。6年生では、地元気仙沼の産業や観光について、未来像を描く話し合い活動を行った。

## ② 防災に係わる活動

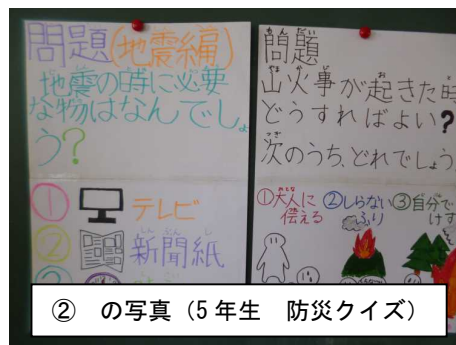
防災に係わる活動については、主に総合的な学習の時間を使って行っている。3年生では、「防災について考えよう」と題して、タウンウォッチングに出かけ防災マップ作りをし、コース毎に発表会を行った。4年生では、「家庭でできる防災を考えよう」と題して、家の中や周りの危険な場所について調べ、我が家の防災マップを作成した。5年生では、「いろいろな防災について備えよう」と題し、土砂災害ループ、地震・津波グループ、洪水グループ、台風グループ等に分かれ、様々な防災のしくみについて調べ、防災クイズをつくり、グループ毎にクイズを出し合った。6年生では、「防災と気仙沼」と題して、東日本大震災を中心材料とし、気仙沼市の防災・復興についてゲストティーチャーを招くなどして、話し合い活動を行った。

## ③ 福祉にかかわる活動

福祉に係わる活動では、4年生から6年生まで「手をつなごう」と題して、4年生では、目や耳の不自由な人の暮らしについて、目隠し歩行やジェスチャー体験、盲導犬と暮らす方をお呼びして講話を聞くなどした。5年生では、足の不自由な人々の暮らし方を知るためにキップハンディー体験を行った。6年生では、高齢者の暮らしを知るために、特別養護老人ホームの恵潮苑を訪問し、介護士から講話を聞いたり、実際に恵潮苑にある施設を体験したりする活動を行った。



① の写真（4年生 大川調査）



② の写真（5年生 防災クイズ）



③ の写真（6年生 恵潮苑訪問）

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他( )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他( 生活科 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・ 4年生：盲導犬といつも一緒に（日本盲導犬協会）
- ・ 5年生：災害・防災図鑑（NPO法人CEMI環境・防災研究所）
- ・ 6年生：認知症サポーター小学生養成講座副読本

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、ユネスコスクールの活動として、教育計画の中にESD全体計画を明示し、学校目標を頂点としてESDテーマ・ねらい定め、その下に本校で育てたい能力・態度の4項目を柱に、ESDで重視する能力・態度の7項目とリンクさせながら、特別活動、生活科、総合的な学習の時間を使い行っている。具体的な活動として、「地域」「防災」「福祉」の3つの領域でカリキュラムを構成し、ESDの実践を行っている。また、各学年の計画に体験活動とフィールドワークを位置付け、体験したことを基にして、課題追究型の学習に発展させている。指導方法の工夫改善としては、定期的に行われる打合せや職員会議等で反省点と改善点を出し合い、よりよい活動になるよう努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各学年で活動内容の大まかな流れは決まっており、児童の実態や興味・関心によるカリキュラムの見通しがなされている。ただし、学習を学年のみで完結させず、6年間を通した学習のつながりを意識しながら、教科横断的に児童の資質を育成できるような柔軟なカリキュラム配列になるよう努めている。また、最終的には、ESDで身に付けた力を社会の中で活用していけるような学習活動を目指している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本校における評価の方法は、評価基準として具体的に定められている。それは、①意欲・主体性、②課題解決能力、③コミュニケーション能力、④自己の生き方を考える力、の4基準である。また、それぞれの基準において、どのようなことができたときに、それぞれの基準が達成されたかについても具体的に文章化して評価している。同時に、児童一人一人に、活動毎の感想や振り返りシートの記入をさせたことで、自己評価にもつながった。これらによって明らかになった成果から、児童が意欲的に課題を追究したり、学んだことを次の学習に生かしたりしようとする態度が身に付いていることが分かった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校では、活動成果の発信は、年に2回行われる気仙沼ESD/ユネスコスクール研修会において実践報告という形で行っている。内容においては、その年の全体計画や実践事例、ESD推進上の課題や改善点などが挙げられる。また、ユネスコスクールに入会している気仙沼市内の幼・小・中・高からの実践報告がなされ、話合いがもたれたことで、環境の違う他校の現状がよく分かり、それが自校におけるESDの改善・修正に大きな効果となった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

⑤でも記載したが、本校におけるユネスコスクールの交流は、年2回行われる気仙沼ESD/ユネスコスクール研修会である。また、昨年(2019年)の11月に行われた気仙沼ESD/RCE円卓会議では、小・中学校の教諭のみならず、宮城教育大学の教授、気仙沼市役所の課長、気仙沼ユネスコ協会の理事などが集まって講演や討論会を行った。このように小・中学校以外の関係者からの講話や協力、サポートが得られたことで、ESDをより強く意識した本校の教育活動につながった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

本校では、「地域」「防災」「福祉」の3つある領域の中で、講師依頼をして、様々な方達からESDの活動のために協力を得ている。また、近隣の幼稚園児や小学校の児童との交流もESDのカリキュラムに沿って行われている。しかし、現時点においては、県外の学校との交流やスカイプ等を使ったネットワーク形成には至っていない。今後は、活動の領域を広げ、国内外のユネスコスクールと交流の手を広げていきたいと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

本校では、学校行事である「ふるさとまつり」がESDを意識した教育活動の一つとなっている。そこでは、ESDのねらいである「他者と協力する態度」や「自ら進んで参加する態度」を活動に取り入れたことで、進んで地域や地域の人たちと関わり、思いや考えを伝え、自分のふるさととしてこの地域をつなげていこうと意識する児童が多くなってきている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度は、全校において教科、特別活動の時間を使って活動する予定である。また、1、2年生では、生活科を中心に行い、中・高学年では、総合的な学習の時間を使って活動していく予定である。前年度に課題として挙げられたのが、地域学習である。4年生の大川での体験学習では、体験することが目的になってしまい、問題解決のための知識や技能を身に付けたり、自分たちでできることを考え、実践しようという意識や態度を育てることが難しかった。そこで次年度の地域学習においては、学年の系統性や学習の広がり意識した指導計画になるよう、再度、改善・修正を行うことで、問題解決能力や学びを生活と関連付けられるようにしたいと考えている。また、古くから新城に伝わってきた歴史や文化を今後も傳承していくために、これまで活用してきた人材・素材を整備するとともに、新たな地域人材の情報を集め、多様な学習に対応していきたいと考えている。